

理 事 長 所 信



2019 年度（第五年度）

一般社団法人 北名古屋青年会議所



六 浦 基 晴

昭和54年12月13日生まれ

m5_architecte /

エムサック__アーキテクト一級建築士事務所 主宰

大阪芸術大学 芸術学部 建築学科 卒業

【経歴】 法人格省略

- 2017年度 北名古屋青年会議所 入会
北名古屋青年会議所 愛市精神溢れるまちづくり委員会 委員
2018年度 北名古屋青年会議所 まちの輝く未来創造委員会 委員長

【JCI クリード】

The Creed of Junior Chamber International

We believe:

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of men transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free man through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality;

and That service to humanity is the best work of life.

(和訳)

我々はかく信じる:

「信仰は人生に意義と目的を与え人類の同胞愛は国家の主権を超越し、正しい経済の発展は自由経済社会を通して最もよく達成され、政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり、人間の個性はこの世の至宝であり人類への奉仕が人生最善の仕事である。」

※JCI クリードは、JCI の定款に示されている条項のひとつで、JC メンバーの行動の最も基本的な理念となっている。

【JCI MISSION】

To provide development opportunities

that empower young people to create positive change.

(和訳) 青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的に活動できる機会を提供する。

【JCI VISION】

To be the leading global network of young active citizens.

(和訳) 青年の行動的市民活動を支援する国際的なネットワークをもつ先導的機関となる。

【JC宣言】

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

※JC宣言は、綱領と並ぶJCメンバーの目指すべき基本としてあげられ、混沌（エネルギーが充満したニュー
トラルな状態）から切り拓き、そして率先して行動することがJCの使命であり存在意義であるとしている。
時代に即した宣言 とするため2001年10月に改訂され現在の宣言となる。

【綱領】

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築きあげよう。

※JC綱領は、JCメンバーの意志を統一し、日本青年会議所のあり方を再認識するため、1960年に日本独自の
ものとして制定された。この綱領には、青年会議所としての理念を確立し、JCメンバー一人一人の運動目
標を明確に位置づけたものである。全国の青年会議所は、JC綱領を基にJC宣言によって社会との約束を行い、
「明るい豊かな社会」という目標に向かって行動している。

【北名古屋市民憲章】

わたしたち北名古屋市民は、先人の築いてきた郷土を愛し、ともに手をたずさえ、健康で快適
なまちづくりと未来にはばたく人づくりをめざし、この憲章を定めます。

- 一 心とからだの健康に努め 温かい家庭と思いやりのあるまちをつくります
- 一 きまりを守り助けあい 安心して暮らせるまちをつくります
- 一 自然や環境を大切にし 清潔で住みよいまちをつくります
- 一 生涯にわたって学びあい 豊かな文化を創造します
- 一 多くの人と交流し 世界につながる夢と希望を広げます

理事長所信

一般社団法人 北名古屋青年会議所
第五代理事長 六 浦 基 晴

『一生懸命』

自らの探究心が新しい北名古屋を形作る

「“北名古屋” というまちが好きですか」

<はじめに>

私は生まれも育ちも北名古屋である。父や祖父、それより前の世代から、見渡す限り何も無い田畑だけの頃よりずっとこの地で暮らしている。

大学進学や就職で一時離れはしたが、今時珍しい生粋の地元民である。10年ほどはこのまちを離れただろうか、その間はあまり帰省する機会がなかったが、帰ってくるとまちは程良く綺麗になっているものの、何かしらの違和感を感じた。「まちが変わる」これは悪いことではない。ただ心のどこかに寂しい気持ちがあった。今から10年程前、私が20代後半の話である。

この地に根を下ろし生活していると、設計という職業柄も相まって、まちに対する想いは日に日に増すばかり。良い面も悪い面も、時代の変化が急速に進み、それに対してまちが対応し切れていないように感じる。まちも人も簡単には呼応できないのである。

< “ふるさと” 北名古屋 >

西春町と師勝町が合併して13年が経ち、大都市名古屋に隣接するまちとして数年後までは人口が微増する。まちにひとが集まるにつれ、田畑が広がるのどかな地域にも少しずつ大型店舗が建ち並ぶようになり、公共交通機関を含め、利便性が飛躍的に向上した。生活する上では大きな不自由がないこの北名古屋であるが、本当の意味で豊かになっているのだろうか。すこし疑問が残る。

わたしたちにとって“ふるさと”とは何でしょうか。

故郷（こきょう）という表現でも良いかもしれない。この言葉はまちづくりに対して深い関係があると私は考える。この答えは、一市民である私も含め、1人ひとりの心の中にある。いついかなる時でも、遠く離れていても、このまちのことを想う心があれば、本当の意味でまちが豊かになっていくのではないだろうか。そして、「このまちが好きである」という言葉こそが、まちの豊かさを計る指標であると私は考える。

現在、七割以上の市民がこの北名古屋を「住みよいまち」と認識しており、また永住も視野に入れて暮らしている。ただ、統計を見る限り“便利である”という言葉だけが先行しており、本当にそれだけなのか、と私は言いたい。なぜなら、まちの価値は利便性だけでは計れないはずである。

まちの進化を止めるすべはない。ただこの北名古屋が、市民にとって、またこのまちに関わるすべてのひとにとって、心のよりどころ“ふるさと”となり、本当の意味で愛されるまちとなるよう信念を持って運動を展開していきたい。

< まちを知る >

北名古屋というまちをもっと良く知ろう。これはこのまち全体をマクロな視点で見ることである。さすれば、時に指摘されるような“目立った特徴の無いまち”ということは決してない。

このまちは、文化や歴史、自然環境、地理などに加え、各地域に根付く慣習、また地域性に特化した行事など、様々な特徴を有している。そして、まちのため、市民のため、目的や規模は様々であるが、官民間わず、多くの諸団体がそれぞれの独自の強みを活かして活動を行っている。

市民一人ひとりが、このまちのことを広く深く、また興味を持って知ることができれば、まちに対する愛着心を養うことができる。そして、その一つひとつの愛着心が市民を動かす力となり、まちを大きく発展させる。

私たち北名古屋青年会議所が、力強くまちを牽引する中心的な存在として、何が必要とされ、何ができるのか。まちで活動している諸団体との連携も視野に入れ、まち全体の情報を共有し、この北名古屋の発展のために全力を尽くしていきたい。

<ひとを知る>

まちを知ると、それに関わっている“ひと”が見えてくる。私はこれをまちに対するミクロな視点と考える。まちづくりにとって「まち」と「ひと」は一体である。どのようなひとが、何処で何を行っているのか。まちと向き合い活動をする上でとても大事な要素の一つである。

“北名古屋は人材の宝庫”である。一つ能動的に行動するだけで、十の素晴らしい人材に出会うことができ、ひととひとの繋がりが自分自身を成長させる。

市内で活動している優れた人材と繋がることは、私たちの青年会議所の活動にとって大きな力となり、仮に「人材と人材を結ぶ＝点と点を線で結ぶ」という“点つなぎ”のような見方をするのであれば、点だけでは見えてこなかった北名古屋の新しい姿が現れてくるのではないだろうか。私はこれが北名古屋の未来図であると信じてやまない。そして、この未来図を描くということこそ、私たち北名古屋青年会議所に課せられた大きな使命である。

<まちづくりの可視化“SDGs”>

“SDGs”は2015年9月の国連サミットで採択された指標であり、国連加盟193ヶ国が2016年から2030年までの間で達成するために掲げた目標である。この持続可能な開発目標である“Sustainable Development Goals=SDGs”は、まちづくりにおいて、一種の可視化のツールであると考えられる。

視覚的にも簡潔な17の目標は、プロセスからゴールまでが明確に提示され、自分たちが今、何を目標として、この活動を行っているのか、わかりやすく表現することができる。そして活動自体の本質を容易につかむことができ、一人ひとりがまちに目を向けるきっかけを与える。

まちの変化は、非常に緩やかである上、結果が出ていることすらも分からない時がある。だからこそ、この仕組みを活用し、些細なことでもまちに目を向けやすい環境作りが重要であると考えられる。

まずは本年度、私たちがこのSDGsを率先して取り組むことによって、北名古屋の未来のために活動している全ての方々が一つになるきっかけを作り、市民の方々がまちの取り組みを身近に感じ取ることのできる環境をしっかりと構築していきたい。

<創立5周年>

北名古屋青年会議所は、本年度で創立5周年を迎える。たかが5年、されど5年。ようやく階段を一段上ることができ、これまでの歴史を築き上げてきた諸先輩方の努力、また関係者の皆さまには感謝の言葉しかない。

まちにとって私たちの存在は、年を重ねるごとに大きくなっていると実感する。しかしながら、まだまだ力が及ばず、私たちの運動は裾野までしっかりと広がっているとはいえない。

このまちの未来ため、発展のため、私たちメンバーが一丸となり、市民一人ひとりに北名古屋青年会議所という力強い存在をしっかりと記憶していただけるような運動を一年通じて展開したい。

<北名古屋青年会議所の成長>

次の5年後、私たちはどうなっているのだろうか。今一度、自分自身にしっかり問うて欲しい。そして、この一年を通じてメンバー1人ひとりがこのことに対して真剣に向き合うことが何より大切であり、より大きく、またより力強く組織を継続していくためには、メンバーの拡大はもちろんのこと、過去をしっかり振り返り、また先を見据えて今を考えることが重要である。そして、価値観は違えど、目標に対して共感できる仲間と共に、誠意を持ってこのまちの発展に貢献し、また自らの成長を促す。

苦しいときは必ずある。だが、自分と向き合い、考え、行動することこそが一年後の自分の成長した姿、また私たちの未来の姿であることを自覚し、常に意識を持ってこの一年を活動して欲しい。

今という時間は長い人生に置き換えると、ほんの一瞬である。自分自身を律するのは自分の心の強さである。己を信じ、仲間を信じて、共に歩むことに感謝していただきたい。

<むすびに>

平成という時代が終わり、新しい時代が始まりを迎える。しかしながら、私たちにとって本年度が区切りの年ということではなく、過去から未来へ通過点でしかない。

組織の目標は「卓越した“個”の集合体」。失敗を恐れず、一人ひとりがJAYCEEとしての自覚を持って大きく挑戦して欲しい。

そして、これだけは忘れてはいけない。私たちにとって未来を繋ぐ勝負の年であることを。今一度、一人ひとりが持てるべきすべての力を出し切って絶えず走り続けていくことを。

何事も「一生懸命」、がむしゃらに突き進もう、未来のために



一般社団法人 北名古屋青年会議所